

# 与謝野晶子より藤岡瑠璃子へ

いにしへの春秋を見せかたみなるその女君生ひ立ちぬべし  
晶子

平成二十七年七月一日（水）  
〜九月二十五日（金）  
登録有形文化財「藤岡家住宅」にて

「哀詩」（与謝野晶子筆）

〒637-0016 奈良県五條市近内町 526 ☎と FAX 0747 (22) 4013

登録有形文化財「藤岡家住宅」 管理人 NPO 法人うちの館

[info@uchinono-yakata.com](mailto:info@uchinono-yakata.com) <http://www.uchinono-yakata.com>

「源氏物語礼讃」（与謝野晶子筆）

背景「木通の花」石井柏亭・与謝野晶子

宇野（藤岡）瑠璃子追悼の手紙（与謝野晶子筆）



与謝野晶子から

藤岡瑠璃子宛葉書

昭和7年4月。晶子

53歳、瑠璃子18歳

## 与謝野晶子より藤岡瑠璃子へ

平成27年7月1日（水）～平成27年9月25日（金）

登録有形文化財「藤岡家住宅」展示室1F・母屋にて

NP0 法人うちのの館（やかた）

〒637-0016 奈良県五條市近内町 526

☎とFAX 0747 (22) 4013

E-mail [info@uchinono-yakata.com](mailto:info@uchinono-yakata.com) <http://www.uchinono-yakata.com>

午前9時～午後4時 月曜休館 月曜が祝日のときは開館して翌日休館



与謝野晶子から

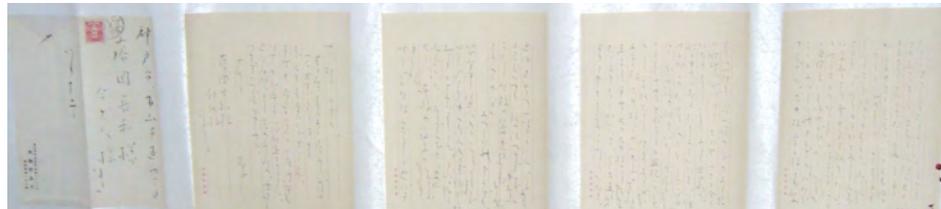
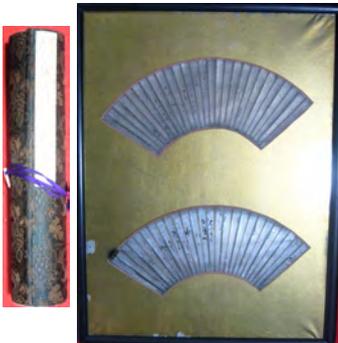
藤岡瑠璃子宛封筒

宇野瑠璃子（うの るりこ）＝（藤岡瑠璃子）は、藤岡長和（俳号 玉骨）長女です。大正3年（1914年）12月1日、藤岡長和が26歳。東京帝大を卒業し愛知県の官吏として赴任した年、名古屋市で誕生しました。昭和11年（1936年）に結婚、昭和12年（1937年）8月7日、長女を出産して翌々月、神戸市で急逝します。まだ24歳という若さでした。藤岡瑠璃子は、父である長和が内務官僚となり、佐賀県、和歌山県、熊本県の知事を歴任した最も華やかな時代の子どもであったため、ドイツ製のピアノを弾き、英語の家庭教師を付けてもらい、スキーを楽しみ、いわゆるお城様の教育を受けて育っています。両親を通じて与謝野晶子、南方熊楠、高浜虚子、永井瓢齋らと交流があり、阿波野青畝、五十嵐播水らと吟行をし、和歌山県知事官舎で開催された句会にも、当代一流の俳人に混じって参加しました。瑠璃子の結婚は、新聞各紙に大きく報道されました。

瑠璃子が亡くなった後、藤岡長和の生活は一変したように見えます。瑠璃子の俳句と瑠璃子への追悼文をまとめた俳文集『瑠璃』を上梓（昭和13年）。熊本県のハンセン病施設菊池恵楓園に文芸堂「言志堂」を寄贈。施設入所者と一緒に俳句を詠みました。菊池恵楓園では俳句が盛んになり、俳誌「菊地野」はその後も長く刊行されています。長和は翌年（昭和14年）熊本県知事を辞し、紡績会社、銀行の取締役を歴任しながら、高濱虚子に師事して「ホトトギス」派俳人としての活動が中心になりました。

「・・・20歳の春ごろから、父玉骨の影響からか、俳句をたしなむようになった瑠璃子は宇野瑞と結婚した翌年の昭和12年（1937年）8月7日、くも膜下出血のため、その前々月10日に分娩した女兒を残して24歳で亡くなった。（略）短い人生の間に791句を作ったという。その中の411句を玉骨が選んで一本にしたのが本書（俳文集『瑠璃』）であるが、そこに高濱虚子と与謝野晶子が追悼集を寄せているのが注目される。（略）晶子の「うつつ絵のおん親と子よとこしへに斯くしも抱かん形なくとも」「いにしへの春秋を見せかたみなるその女生い立ちらぬべし」「今は無く学校のわざ終へたまひねびととのひて人に嫁ぎて」「幸ひに足るらへる人と見しかども寂しかりけん世を去れる際」「吹き出でし清き初めの秋風に乗りて御空へいにたまひけり」はいずれも全集に収められていない。（以下略）奈良新聞 平成21年5月19日付「近代文学と奈良」入江晴行筆より引用

晶子が藤岡（宇野）瑠璃子に送った葉書、瑠璃子追悼の手紙、詩。そのほか、晶子直筆の「源氏物語礼讃」などを公開します。



左から「源氏物語礼讃」「晶子筆扇面」「晶子からの手紙」「与謝野寛の封書」

